

「2度目の受難予告」

§ 088 マコ9:30~32、マタ17:22~23、ルカ9:43~45

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①山頂体験と麓の体験
- ②ものを言えなくする悪霊の追い出し
- ③人々の驚き
- ④そのタイミングで、イエスは弟子たちに2度目の受難予告をされる。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

「2度目の受難の予告」 (§ 88)

マコ9:30~32、マタ17:22~23、ルカ9:43~45

2. アウトライン

- (1) 問題の発生
- (2) イエスのことば
- (3) その結果

3. 結論：パラドックスに関する考察（自己矛盾を起こす命題）

- (1) 第1のパラドックス
- (2) 第2のパラドックス
- (3) すべてが知らされていないことの祝福

2つのパラドックスについて考えてみる。

I. 問題の発生（ルカ9:43）

「人々はみな、神のご威光に驚嘆した。イエスのなさったすべてのことに、人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた」（43節）

1. イエスは悪霊の追い出しを行った。
 - ①それを見た人々は、神の威光が示されたと解釈した。
 - ②人々はみな、イエスの力に驚いた。
2. 人々が、イエスを政治的メシアとして祭り上げる危険性があった。

- ①弟子たちも、一般民衆の熱狂に巻き込まれている。
- ②しかしイエスは、十字架に向かって歩み始めている。

3. ルカは、人々の熱狂と、受難の予告を、並べている。

II. イエスのことば (44 節)

「このことばを、しっかりと耳に入れておきなさい。人の子は、いまに人々の手に渡されま
す」 (44 節)

1. 弟子たちの頭を冷やす必要があった。

「このことばを、しっかりと耳に入れておきなさい」

(1) 日本語には、「あなたがた (ヒューメイス)」という言葉が訳出されていない。

- ①原文では、「あなたがた」が強調されている (置かれた位置で分かる)。
- ②他の人たちがどのような評価を下そうとも、あなたがたに関しては…。

(2) 「しっかりと耳におさめておきなさい」とは、よく記憶せよという意味である。

2. 耳におさめるべき真理とは何か。

「人の子は、いまに人々の手に渡されます」

(1) これは、2度目の受難の予告である。

- ①「人の子」とは、メシアの称号である。
- ②人の子は、いまに人々の手に渡される。
- ③「メレイ」というギリシア語が使われている。すぐに実現するという意味。

III. その結果

「しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。このみことばの意味は、わから
ないように、彼らから隠されていたのである。また彼らは、このみことばについてイエスに尋
ねるのを恐れた」 (45 節)

1. 弟子たちは、このみことばが理解できなかった。

(1) ことばが通じなかったわけではない。

- ①その後の彼らの行動を見ると、ことばは通じている。
- ②しかし、彼らにはその意味が分からなかったのである。

2. 理解できなかった理由は何か。

「このみことばの意味は、わからないように、彼らから隠されていたのである」

(1) 訳文の比較

「しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。このみことばの意味は、わからないように、彼らから隠されていたのである」(新改訳)

「弟子たちはその言葉が分からなかった。彼らには理解できないように隠されていたのである」(新共同訳)

「しかし、彼らはなんのこともわからなかった。それが彼らに隠されていて、悟ることができなかったのである」(口語訳)

(2) 理解できなかった理由は、その意味が彼らから隠されていたからである。

①このパラドックスについては、結論で取り上げる。

3. 彼らは、質問することを恐れた。

(1) 自分たちの不安が的中することを恐れたのであろう。

①イエスの変貌を目撃した3人(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)は、その意味を理解し始めていたのであろう。

②他の9人の理解は、まだその段階には至っていない。

(2) この箇所でも、一部見えていて、一部見えていないというテーマが続いている。

結論

はじめに：パラドックスとは、自己矛盾を起こす命題である。

「矛と盾」を売る商人の故事(楚の国)

「I always lie.」

1. 第1のパラドックス

(1) 栄光と苦難というパラドックス

①変貌山でのペテロの経験

(2) 人気と敵対というパラドックス

①麓での弟子たち全員の経験

(3) このパラドックスは、メシアの来臨が2度あることを理解することで解ける。

①初臨のメシアは、受難のメシアである。

②再臨のメシアは、栄光のメシアである。

2. 第2のパラドックス

(1) イエスのことばと、ルカの記録

①イエスは「しっかりと耳に入れておきなさい」と命じた。

②ルカは、「このみことばの意味は、わからないように、彼らから隠されていたのである」と書いている。

(2) 誰がこの真理を弟子たちから隠したのか。

①「弟子たちの頑固な姿勢が、彼らから真理を隠した」と考えられる。

*彼らは、栄光のメシアというイメージしか持っていなかった。

*その姿勢を、最後まで変えなかった。

②「神が、彼らから真理を隠した」とも考えられる。

*この場合は、弟子たちの責任は多少軽くなる。

③恐らく両方の要因が絡まっていたのであろう。

(3) このパラドックスは、地上生涯が続く限り存在する。

3. すべてが知らされていないことの祝福

(1) 弟子たちがすべてを理解していたなら、彼らは逃げ出していたであろう。

「イエスは彼らに向かって言われた。『まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。わたしは毎日、宮であなたがたといっしょにいて、教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえなかったのです。しかし、こうなったのは聖書のことばが実現するためです。』すると、みながイエスを見捨てて、逃げてしまった。ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったままで、イエスについて行ったところ、人々は彼を捕らえようとした。すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、はだかで逃げた」(マコ14:48~52)

(2) 後になって分かったことがある。

①イエスは、何が起こるかをすべて知っておられた。

②イエスは、自分の意志で、十字架にかかられた。

③ヨハ13:5~7

「それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまもっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。『主よ。あなたが、私の足を洗ってくださる

のですか。』イエスは答えて言われた。『わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります』

*洗足は、靈的洗いを象徴している。

*洗足の靈的意味は、十字架と復活の後で分かるようになった。

(3) 私たちへの適用

①将来のことは分からないので、生きるのは楽しい。

②分からないことがあるので、私たちは謙遜にさせられる。

③詩131篇は「知的謙遜の歌」である。

「【主】よ。私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや、奇しいことに、私は深入りしません。まことに私は、自分のたましいを和らげ、静めました。乳離れした子が母親の前にいるように、私のたましいは乳離れした子のように私の前におります。イスラエルよ。今よりとこしえまで【主】を待て」(詩131:1~3)